

# JOFI OSAKA

JAPAN OFFICIAL FISHING INSTRUCTOR OSAKA



ジョフィおおさか

2000年(平成12年)12月20日

発行者/大阪府釣りインストラクター連絡機構・広報部編集委員会  
大阪市中央区東心斎橋1-9-21ニュー長堀ビル3階34号 大阪府釣り団体協議会・本体内  
TEL.06-6245-4800 FAX.06-6245-1360

# VOL.7

## 水産基本政策大綱における

# 遊魚関係政策の動き

大阪府釣りインストラクター連絡機構 会長 吉川 幾久雄

平成8年の国連海洋法条約の批准により、二百海里時代を迎えてきた。

水産資源の悪化等による漁獲量の減少、漁業就業者の減少、漁民の高齢化、活力の低下等、水産資源は厳しい状況に直面しています。水産物を安定供給することにより、国民生活に貢献していくために二百海里時代にふさわしい基本法を制定する動きは、改革プログラムにそって政策の具体化が進んでいます。私達釣り人は、遊魚者と呼ばれ遊魚関係事項は、徐々にその内容が明らかになりつつあり、社団法人全釣り協には度々答申があります。全釣り協は、釣り人の代弁としてその責務を全うすべく努めています。

まず、遊魚を含む資源管理について海面、内水面の水産資源が適切に行えるよう次の事項を考えています。

- ① 利用と負担 ② 情報の開示 ③ ライセンス制 ④ 遊魚船業者の規制 ⑤ プレージャーボートの規制等があります。
- ④及び⑤については次年度の課題、また、①②③については全釣り協は意見を提示するため意向を集約中であり、特にライセンス制については、絶対反対を表明するが、放流資源の利用負担については、情報の公示を義務付ける方向で、海面内水面共に協力することが遊魚者の立場と考える意向が強い。内水面において水産動物を捕食する外来魚(特

にブラックバス、ブルーギル、コケチバス)は、ブラックバス釣り人の増加に伴いこれまで生息していなかった水域への移植が行われ、その生息域が急速に拡大している。このため、増殖している水産資源に被害が出ていることや、漁業者やその他の遊魚者とのトラブルが各地で発生しています。ほとんどの都道府県において移植の制限が行われています。移植の制限は取り締まりが困難なため、また、その効果も少ないことから、生息域が拡大し続けているのが現状です。ブラックバス釣り愛好者は、若年層を中心に膨大な人口で、釣り界の一端を担っています。既に

漁業権の対象魚種として増殖が行われている所もあり棲み分けの意見もあります。封じ込めと駆除などの総合的な対策を講じて秩序を構築する方向にあります。

釣具会の危機感に全釣り協も協力し、ブラックバスの有効活用と公認釣り場の設置要請署名運動を平成12年10月から展開しています。各都道府県の水産課は、外来魚の密放流防止のキャンペーンを展開しています。私達も、これ以上トラブルが発生しないよう密放流を防止しなくてはなりません。

(吉川 幾久雄)

## 2001年 新春懇親会 開催のご案内

とき 平成13年1月16日(火)  
午後6時30分より

ところ 大阪梅田ヒルトンホテル  
『金山の間』  
大阪市北区梅田1-8-8 (JR大阪駅前)  
06-6347-7111

かいひ 10,000円(当日会場で受付)  
(大復はがきでご案内させていただきましたが、会費が掲載されていませんでした。お詫びしまして訂正させていただきます)

例年どおり、各界からも参加されますので釣り業界最前線のお話が聞けるとともに、交流の輪を広げ2世紀へ躍進しましょう。また、豪華賞品を取り揃え皆様の参加をお待ちしています。

# JOFI大阪研修会開催

平成12年8月6日(日)  
午後1時30分～4時  
大阪市立福島区民センター  
で実施



最初は、大阪府農林水産部水産課の森課長補佐による漁業調整規則等についての現状や、遊漁船・プレジャーボートの問題で今後の課題等釣り人にとって関連する様々な問題点等をお話いただきました。内容については、漁業法、水産資源保護法、用語の定義、漁業権、中でも我々釣り人が直面している問題としては、水産動植物に有害な物、水質の汚濁に関することを自らの手で知らず知らずうちに、又、意識的に行う行為等も改めて考える必要があるのではないか、特に現在問題となつている「ブラックバス」の密放流等は行つてはならない事だと肝に銘

じた次第です。

次に来田氏によるバス問題の現状が報告されました。特に気になったのが、京都の加茂川に密放流されたコクチバス等は、オオクチバスの3倍のスピードで泳ぐ事ができるうえ、群れを組んで狩りをする魚だと聞き驚いてしまう次第です。それに加えて冷水にも強く溪流等に放流されれば、在来種が絶えてしまうことに

もなりかねないと言われているとのこと。釣り人としては心病む事です。また、バスの他に問題となっているブルーギルは、エッグイーターなので、むやみに移植や放流をしてはならない魚だと十分認識しておく必要があると感じました。

三番目は、今人気の船釣りで流行しているジギングについて、萱間氏(JLAA)よりお話がありました。内容については、釣り糸がナイロンからPEラインに変わった事で極端に釣果がアップした事、また、タックルの進歩で釣果が5倍にまでアップした等、うれしい話がありました。

これは、釣り技術の進歩と熱心な釣り人の研究心の結果であろうとのことです。一例をあげれば、ラインの結節方法等が大きく変わり、改善された事で強い仕掛け作りが出来る様になったこととPEラインの導入で深ダナでの操作性がより良くなった事です。また現在は、漁師(プロ)の間にも広まり、高い人気を得ている「ハオリジグ」は乱獲の恐れがある程聞く、今後はルールを必要とされるのではないかと言われるほど釣果が増えた事に、我々も気を引かれるが、何か大切な事を失うのではないかと言う気持ちの片隅に浮かんで来る事です。

年一回の研修会ですが忘れかけていた事を思い出すよい機会だと感じました。

(中部地区 東野英治)

## 第四回普通救命士資格講習会

— 初めての講習会と思う事 —



「モシ、モシと肩を叩きながら」

の呼びかけで、始まる第四回普通救命士資格講習会が、大阪中央消防署に於いて、平成12年8月20日開催されました。定員の30名を上回る40名が出席され消防署所属救命隊共感の指導の下、2班に別れ実技講習を主体とした個人指導が行われ、緊張感の中にも冗談も飛び交い和やかな雰囲気、①意識確認 ②口中確認 ③気道確保 ④呼吸確認 ⑤人工呼吸 ⑥脈拍確認 ⑦心臓マッサージと、実際に人形をモデルとして行つてみると、確認、確保と言った言葉さえ発せられずに戸惑、次に何をしたらと、頭は真っ白、一秒、一秒が生死を別けると言うのに、フロセスの理解と把握、同時に技能訓練量の大切さも痛感した講習会であつた

(南部地区 栗林源一郎)

## フィッシング・マスター試験実施

11月25・26の2日にわたって

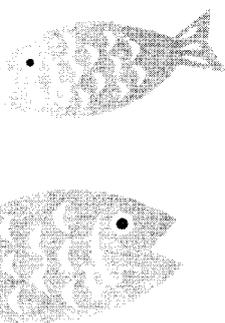
大阪市北区天満のヒューマン・アカデミー大阪校において講習会ならびに試験が行なわれた。東京以外で試験が行なわれるのははじめて。

フィッシング・マスター(上級インストラクター)制度は水産庁の補助金を得て、平成9年から始まったもので、インストラクター経験3年以上の実績をもつ人で府県インストラクター連絡機構、広域団体などに推薦された人に受験資格がある。

目的はインストラクター組織のリーダーあるいは行政や漁協組合との折衝などにあたるべく、十分な経験と知識を持った釣り人を養成することにある。

今回は九州、中部、北陸など各地からも18人が受験、外国のライセンス制度、水産法規の現状、魚類の生態その他、現在の我が国における最高権威者の講義に熱心に聞き入っていた。

(副会長 来田仁成)



# 活動報告

## 西区区民祭り 「楽しい釣りコーナー」に 始めて参加して思う



顔、色々な個性との出会い、毛針を巻いて教えるというよりも、初めて出会う人々との語らいが楽しく、会場も人人人、あつという間の一日でした。

エピソードとして「ここは何を作るコーナーですか」と小学生三人グループが寄ってきました。すると前に教えた一人の子供が「俺オッチャンに教えてもらって巻いた毛針三つ

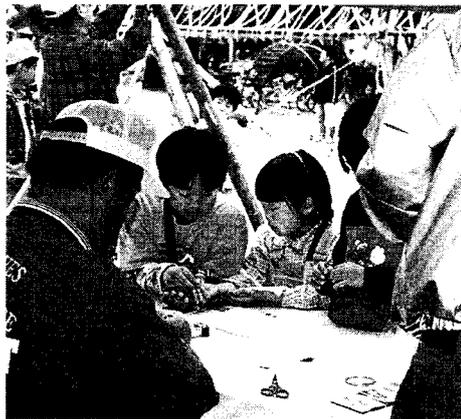
西区区民祭りの会場に着くと挨拶も早々、手際良く各コーナーの設営が始まった。いかつい面々とは程遠い自然な連帯感の流れに、私も自主的に動かすにはいられませんでした。接してみると気さくで暖かい雰囲気、役員さんばかりで、内心ほっと心をなでおろしました。始め良ければ終わり良しの諺通り、天気にも恵まれ良いことずくめの始まりでした。前半から後半と途切れることなく、私達のコーナーにも訪れてくれる家族や、子供達の笑顔、子供達の笑

持ってんねん」と胸を張り話すその眼の奥に、遠く過ぎ去った子供の頃の自分の姿が重なり、ダブってみえたのは、私だけではなかつたように思う。

(報告者 桃溪会 日高正)

〈追記〉当日、財団法人日本釣振興会近畿支部 事務局長の稲田さんも参加され、「公認バス釣り場増設のお願い」の署名活動を実施され、多数の署名を区民の皆様からいただきました。また、同地区の永和信用金庫西支店から七名も活動に参加協力いただきました。来年度は、「楽しい釣りコーナー」で独自コーナーを開くとのこと、大きな期待が広がります。

(中部地区 井波良幸)



## 全国一斉釣り場清掃デーと 大阪府ファミリー釣り大会に協力参加

JOFI大阪では10月15日、大阪泉佐野市の食品コンビナート(泉佐野新港)一体の波止釣り場で催された日本釣り振興会大阪府支部・主催、大阪府釣り団体協議会など協力の「全国一斉釣り場清掃デー」と協賛事業の「大阪府ファミリー釣り大会」の運営に協力参加しました。



吉川会長はじめ来田、木村両副会長、中出事業部委員長らJOFI大阪の会員29名が参加、早朝午前4時に開設した本部席で一般参加の受付や釣魚審査などにあたる一方、釣り場での指導、ゴミの回収など奉仕作業に取り組みました。

釣り場の清掃では、会員らがゴミ袋を片手に釣り場を回り、テトラポットや岸壁に捨てられてある空き缶やビニール袋など回収。また、つり人にも協力を呼びかけ、およそ1トンのゴミを回収しました。

釣り大会では、家族連れや、釣り



グループなど373人がエントリー。アジ、イワシ、スズギ、チヌなどの競技対象魚の腕を競うなか、会員達は、事故防止を呼びかけたり、ピグナー相手に釣具や仕掛けの扱い方など指導にあたりました。

(広報部 北田敬明)

### 会報への投稿を歓迎します!

広報部では、充実した会報の作成のための会員の投稿を歓迎します。会運営に対する意見、提言。また、釣り場の環境問題をめぐるレポートなど、どしどしお寄せ下さい。原稿は郵送またはFAXでお願いします。

大阪市中央区東心斎橋1-9-21ニュー長堀ビル  
3階34号 大阪府釣り団体協議会本部内  
「JOFI大阪・広報部」

FAX.06-6245-1360

# 活動報告

## 大阪湾チヌの稚魚放流事業



水質浄化・放流の成果  
釣りファン夢のよう



### 「チヌの海」戻った



「茅渚の海ふたたびを」合言葉に、かつてのようなチヌの魚影濃い大阪湾を取り戻そうと日本釣振興会大阪支部と大阪府釣り団体協議会の呼びかけで、毎年行われてきたチヌ稚魚放流事業は今年で18回目を数えました。8月24日朝9時過ぎ本部となった堺新港の岸壁は、この日のために集まったボランティア50余人（JOFIは32名）とマスコミ関係者20余人の人達で賑わった。チヌ釣りの人気は今でも根強く、最近では「チヌの宝庫」として知られる大阪湾には全国から釣り人が訪れています。水質も徐々にあるが改善されてきており、「茅渚の海を21世紀に引き継ぎたい」と代表者の熱い挨拶の後、大阪府栽培漁業センター（岬町多奈川）で育てられたチヌの入っているトラックの水槽から参加者そうがかりによるバケツリレーを開始、待機する放流船（丸高渡船・ヤザワ渡船）の船倉は無数の稚魚でみる



みるうちに活気づいて行く、毎年このことながら折りからの挨拶と熱気で全員汗だくの作業が繰り返された。この日朝に約6センチ（5〜7センチ）に成長したチヌの稚魚約4万匹を大阪南港・北港や堺市・岸和田市沖で放流しました。聞く所によるとチヌは市場価格が低く、ほかの魚と比べるとあまりに漁獲量は多くない。それでも放流により生息数が増えたとみられ漁獲量も増えているそうです。また、大阪湾の水質改善もチヌの生息数の増えた要因と考えられます。

「エサに食いつかないはずの冬でも釣れる。それは、本来の生態ではないので、ほとんどが人工ふ化で放流されたチヌであるだろう。」とヤザワ渡船の店主は推測している。

（報告者 伊藤静雄）

### 岬マリンフィッシング 親子釣り大会の運営に協力

南部地区委員階では8月6日、泉南・岬町一帯の海岸で開催された岬マリンフェスティバル2000実行委員会主催の「親子釣り大会」に参加。釣魚審査など大会運営に協力しました。この催しは、『マナーを釣ろう大阪湾』をテーマに海の環境保全や地域交流を呼びかけ、同実行委員会を中心に地元商店街組合（共催）日釣振大阪府支部、毎日放送、南海電鉄（後援）地元各漁業組合、JOFI大阪南部地区委員会（協力）など各種団体が参加、毎年夏休み期間中に開催されている町ぐるみの夏の恒例行事です。南部地区委員会から5人のメンバーが参加、早朝6時から淡輪、深日港で大会受付を始め、釣魚審査会場の設営。また、大会に参加した大阪を始め和歌山、奈良、京都、兵庫県下の家族連れなど120組（300人）の釣り指導や釣魚審査。



表彰式での審査評など、真夏のカンカン照りのもと汗だくで活動を展開、町当局を始め大会関係者から多大な

### 淀川「わんど」クリーン 大作戦に行ってみました



感謝の言葉と、次回2001年度開催の協力要請を受けました。なお、この活動模様は、地元のケーブルTV「テレコムりんくうチャンネル9」で放映されました。（報告者 北田敬明）

さる、平成12年7月16日淀川河川敷き、城北のわんど地区で淀川「わんど」クリーン大作戦と名づけ清掃作業と生物調査がおこなわれました。この行事は、主催・建設省をはじめ総勢15団体1,500人近い人数が集まり、大規模なクリーン大作戦が行われました。我が釣りインストラクターは、総勢19名が参加し、立っているだけでも汗ばむカンカン照りのこの日、皆で淀川「わんど」の清掃奉仕を行いました。このような活動により、多くの人達に「我が団体大阪府釣りインストラクター連絡機構」の存在と価値が認められることにもなるものと考えます。今後とも淀川がいつまでも「LOVE遊淀川」で清らかな美しい川であって欲しいものと願ってやみません。（報告者 濱上勲）

地区 釣り教室 レポート



JOFIによる大阪市内初の  
フィッシングスクール  
西区フィッシングスクール

第1回 西区フィッシングスクール  
日時／7月8日(土)・9日(日)  
場所／西区民センター  
対象／小学生

＜1日目＞

参加者はほとんど釣を知らない小学生17名・成人女性1名の受講生でスタートしました。最初はやはり小学生です、お土産が気になりザワザワしていました。講習が始まると雰囲気は一変し未知の釣に目を輝かせ熱心に聞き入り、鋭い質問が飛び交い講師は嬉しい悲鳴を上げ、冷や汗をかきながらニコニコ顔で進行しました。最後に仕掛作りの予習として、外掛け本結びをひととおり説明、2日目の宿題として、子供達にお土産を渡し1日目を終了しました。

＜2日目＞

本日1番目のプログラムは仕掛作りから、まず昨日の宿題の外掛け本結びからスタート。家で相当練習したのでしよう、15分もすると大部分の子供が出来るように成りました。後は「ヘテグス結び・チチワ結び・ブショウ付け」を練習しました。なかなか出来なくて泣き出す子もいましたが皆良く頑張ってくれました。次は子供達の作った仕掛に餌のミミズを刺してもらいました、これは直接触れられない子供もいて、現代のルアーフィッシング隆盛の一端を垣間見た気がしました。マナー講習では講師の実体験を織りまぜた危険回避・自然への慈しみを、身ぶり手ぶりと

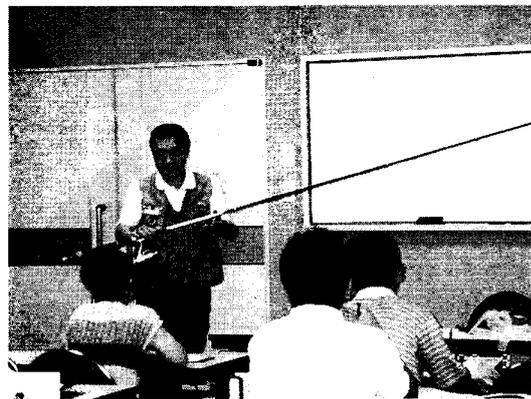
解り易い言葉で子供達に伝え、1人でも多くの健全な釣り人の育つことを願って、講習プログラムを終了しました。最後は子供達期待のキャスティングゲームです。賞品の山を目の前にして子供達は真剣そのもの、喊声を揚げながらのゲームの末、順位も決まり全員に賞品を贈り、西区民祭での再会を約束して子供達の笑顔と別れました。私達には実際の釣とは違う心地よい疲れが、明日へのエネルギーを沸き立たせてくれたようです。最後に成りましたが、本講習会を開催するに当りお世話に成った皆様、子供達へのお土産・賞品で御協力頂きました業界格位に厚く御礼申し上げます。

★Topic News★

釣教室受講生の保護者の方からお礼の言葉を頂いておりますので、紹介させて頂きます。

『学校では何をしても認めてもらえず塞ぎがちに成り不登校に至っていた子が、釣教室からニコニコと明るい顔で帰ってきて、自分から昨日と今日の楽しかった事を色々話してくれました。仕掛作りその他で出来ない友達に教える事も出来、先生から認めてもらったと言います。そういう事から自分に自信が持てるように成り、「明日から学校に行く」とまで言いました。子供にとって、良い「癒し」の場、自信を持てる場を作って頂き感謝しています。との事です。(報告者 藤原ケンシ)

平成12年度・泉佐野市  
「市民海釣り教室」開催



定年を迎え、これからの人生に釣りの趣味を生かしたい!と言う中高年層の方々に占め、テキスト片手に熱心に講義に耳を傾

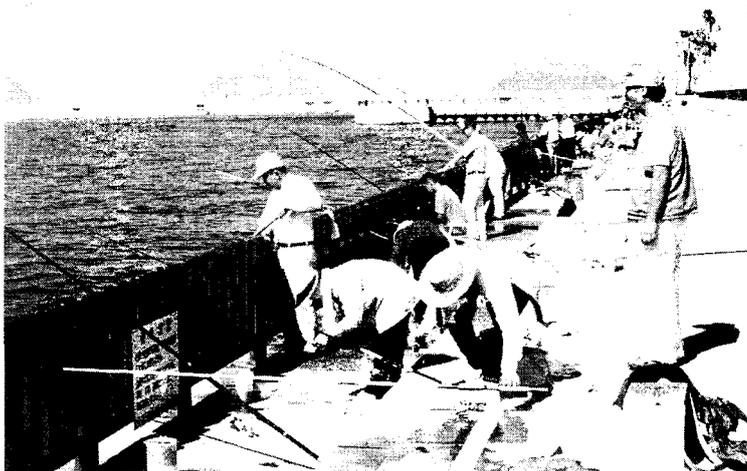
けられたほか。海釣り公園での実釣会では、厳しい残暑も厭わず小アジやコノシロ。30、40センチのソマカツオ(ソーダカツオ)やボラなどを釣り上げるなど、釣りの楽しさを体験してもらいました。

(報告者 南部地区 北田敬明)

南部地区委員会では、9

月3日から毎日曜日の3回にわたり、泉佐野市生涯学習センターで「市民海釣り教室」を開催しました。同センター恒例の講座で、今年で7年目の開講。第一週目は「釣りのマナーと事故防止」「釣具の知識」第二週目は「各種波止釣り仕掛けと糸の結び方」「実釣りに備えて」などの講座。第三週目は和歌山マリナーシテイ海釣り公園での「実釣会」の日程で行いました。

今年を受講者は、子育ての役目を果たした主婦や、



地区 釣り教室 レポート

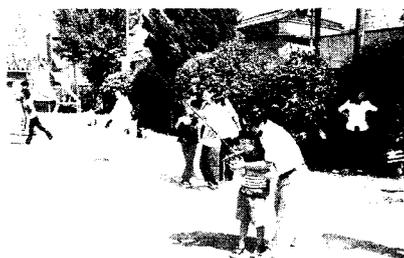
東大阪市民講座

『親子ふれあいつり入門教室 後期 海釣り』



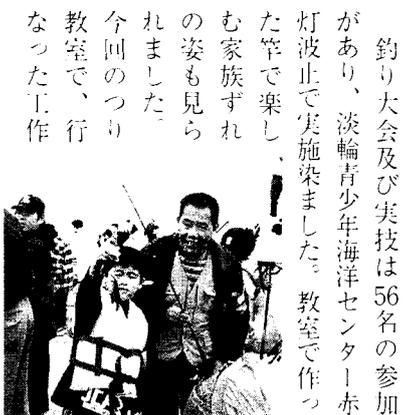
東大阪市民社会教育センター主催の「親子ふれあいつり入門教室」に、私達釣りインストラクターは6名参加協力しました。この釣り教室は、「釣りを通じて親子のふれあいをかかるとを目的に、小学生以上の親子を対象としました。市の広報紙である「市政だより」で参加者を募集した所、多数の方からの問い合わせ応募があり、21組53名の参加応募がありました。

第一日目は、平成12年9月24日（日）東大阪市民社会教育センター3階視聴覚教室で、JOFI大阪副会長の来田氏の挨拶から始まり、「釣りのルールとマナー」「仕掛けの作り方」を行いました。第二日目は、10月14日（土）「海水魚を知ろう」と「海釣り仕掛けの準備について」、実技として「ウキの作り方」を行い、第三日目は、10月22日（日）「釣りの安全知識について」は、松井康輝釣りインストラクター（東大阪消防局勤務）による人工呼吸の実技を含め、安全な釣りをするための知識を講義し「釣り場へ行く前」として、サビキ釣りの実演指導を行



（報告者 山根啓史）

いました。親子で協力しながらの仕掛け作り、子供の仕掛け作りが完成してもまだ出来ない父親、子供に教える母親、協力して作る兄弟とほのほのとした風景が、展開して行きました。第四日目は、10月28日（土）東大阪市民社会教育センターへ朝8時30分に集合し、実習会場である「和歌山北港釣り公園」へ向かいました。それぞれの人達に、サビキ釣りの竿・仕掛け・撒き餌のアミエビと青イソメ・水汲みバケツ等を準備し、参加者に渡しました。参加者の中には、講義で得た知識をもとに、自分で仕掛け等を準備し、早くから釣りを楽しんでる人も多くいました。始めてからすぐに、子供達の歓声があがだし、父親母親の方々も子供時代にかえったように楽しんでおられました。釣果としては、ガシラがおもで全体で100匹ぐらいでしたが、帰りのバスでは親に自慢する子供、童心にかえり楽しかった、日に満楽足されていま



（報告者 山根啓史）

なかに、次回釣りに教室時期を尋ねて来られる母親もありました。大東市野崎青少年教育センター「ふれあいつり入門教室」は本年度の釣り教室は、二回に分けて行いました。実施時期は、5月27日から各週、土曜日の4日間を前期、内水面の釣り教室としました。後期は海水面の釣りを、10月7日より各週土曜日3回と、4回目は釣り大会を伴って実釣りとしました。今回の特色は、内水面では「へら浮木」作りを行いました。講師にはフイツシングショーでへら浮木の出展をされていた、近畿へら鮎釣り連盟の治京賢治氏の協力で、ストローを使った浮木作りを行いました。また、後期の海水面では講義の他、波止の「へちま」を作りました。出来は各自各様満足のいく竿が出来上がりました。



本年度の釣り教室は、二回に分けて行いました。実施時期は、5月27日から各週、土曜日の4日間を前期、内水面の釣り教室としました。後期は海水面の釣りを、10月7日より各週土曜日3回と、4回目は釣り大会を伴って実釣りとしました。

大東市野崎青少年教育センター 『ふれあいつり入門教室』

釣りに教室時期を尋ねて来られる母親もありました。大東市野崎青少年教育センター「ふれあいつり入門教室」は本年度の釣り教室は、二回に分けて行いました。実施時期は、5月27日から各週、土曜日の4日間を前期、内水面の釣り教室としました。後期は海水面の釣りを、10月7日より各週土曜日3回と、4回目は釣り大会を伴って実釣りとしました。今回の特色は、内水面では「へら浮木」作りを行いました。講師にはフイツシングショーでへら浮木の出展をされていた、近畿へら鮎釣り連盟の治京賢治氏の協力で、ストローを使った浮木作りを行いました。また、後期の海水面では講義の他、波止の「へちま」を作りました。出来は各自各様満足のいく竿が出来上がりました。



今後とも教室開催の折にはご協力くださいますよう、よろしくお願ひいたします。また、ご協力いただいた皆様方にもなにとぞよろしくお伝えください。まずは略儀ながら書中にて御礼申し上げます。大東市立野崎青少年教育センター 増田勝彦

は保護者の方から大変よかった、との言葉をいただいたとの事でした。〔報告者 東野英治〕

大東市野崎青少年教育センターから 釣り教室お礼の手紙

晩秋の候、皆様方におかれましては益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。さて、このたび、当センターの釣り教室ならびに釣り大会開催にあたり講師をお引き受けくださったことに心より御礼申し上げます。皆様方の熱心なご指導のおかげで、子供達にと



# 枚方・交野市 『市民釣りの集い』



本年も恒例の「枚方・交野市民釣りの集い」が、この6月、8月、10月延べ8日間開催され、家族共々1300名が、大阪府枚方渚処理場安定池（大阪府淀川左岸流域下水施設）にて終日釣りを楽しみました。今年度も、JOFI北部地区のメンバー

及び地元枚方渚釣友会による釣りマナー・実技を目的とした「釣り教室」をも開催、250名が受講し無事好評裡のうち終了しました。また、JOFI本部及び日本釣振興会製作の「ゴミ袋」「参加記念品」等の配布を行いました。（報告者 北部地区 中出隆文）

## ホーイスカウト 「釣り章講習考査会」

ホーイスカウト技能章指導の一環として、開催されているホーイスカウトなにわ地区進歩委員会主催の「釣り章講習考査会」は、今年も10月22日（日）に大阪府立青少年海洋センターで行われ、JOFI大阪のメンバー7人が参加して指導あたりました。ホーイスカウト達が、正しい釣りのマナーやルールを守ることを学習し、安全に楽しい釣り人生を送れる事を期待しています。また、釣りが大好きと話す「堺第16団 井藤恵君」へ釣りインストラ

クターに挑戦して考査員になるようすすめる」と、「頑張つてみませう」と力強い答えがあり、これからの彼らの成長を楽しみにになりました。

（報告者 中部地区 柴崎隆）

## 和束町キャンプ&フィッシング報告

和束町は京都・滋賀・奈良の山間に位置し、海拔687メートルの鷲峰山（修験場で有名）和束川のひとつに散在する家々、お茶の産地の山里です。私達釣りインストラクターは、今まで和束町教育委員会の要請に応え三重県の伊勢鳥羽、京都府舞鶴等と、キャンプ&フィッシングの催しに参加し野外活動の講師を勤めて来ました。



今年には紀伊長島への企画をし、八月十八日は事前講習会、同月二十六日、二十七日は紀伊長島城ノ浜でキャン

プ、釣りを楽しみました。親子の絆を深め、豊かな感性を育む家庭環境作りを支援しました。参加者は30名で教育委員会数名と釣りインストラクター四名（山田、続木、中田、吉川）で行いました。（報告者 吉川幾久雄）

## 八幡フィッシング教室

八幡市教育委員会主催で、七月二十三日釣りを通じて親子の交流を図り自然に親しむとともに釣りのマナーとモラルを学習して、自然保護の意識向上を目的に親子釣り教室を開催しました。あわせて、障害のある児童生徒の豊かな学校外活動の推進として実施された「釣り」にも協力しました。参加者数は、親子釣り教室は三十名、校外活動参加者二十名でボランティア十五名、教育委員会十名、釣りインストラクター十四名、その他、枚方渚下水処理場、財団法人日本釣振興会、株式会社マルキューの協力で行いました。当日は好天に恵まれ、池畔は多数の参加で大賑わい。名物のナイルピラキヤ、鯉の大きさに釣りが曲がるたびに歓声が上がっていました。特に、障害者と健常者との共生は意義のあることでした。（報告者 吉川幾久雄）



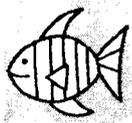
## 各地区のたより

「JOFIひろしま」から、第18号会報が届いています。

広島市民第12回「親子ハゼ釣り大会」では、主催団体として第12回広島市民親子ハゼ釣り大会実行委員会、広島県磯釣り技術振興会とともに広島県釣りインストラクター連絡機構として、実行副委員長に3名、実行委員として「JOFI」広島内水面釣りインストラクター4名と海面釣りインストラクター21名が参加協力。小・中学生と成人保護者のペアの申込を受付、66組150名近くの参加者があり盛大に平成12年11月3日（祭日）に実施されました。当日は、市長賞・デイリー賞を含め、50名の参加者にトロフィーと賞品が渡されています。詳しい内容は、本部事務局に置いておきますのでお読み下さい。また、私達JOFIにおきか、今後地域を巻き込んだイベントを計画・実施していきたいと感じました。



BACK STAGE



『今一度見直したい、釣り人としての自覚』 中部地区 東野英治

「釣り場をきれいに、自然を大切にしよう」。この言葉は釣り人の間で交わされて、もうどの位たつのだろうか。お互い顔を見合わせると、もつときれいに一人一人が気を付けないあかんあと言っばかり。今の釣り人は皆自然を守る、これ以上汚してはならないと、個人の意識レベルは非常に高くなっていると思う。自分で持ち込んだゴミ等は自分の手では始末をする。これは当り前の話である。しかし我々の釣り場の現状を見回すとどうだろう。今だ美しくなったとは言えないのが現状だ。何か足りないのではないか、そう思えて仕方がない。ある釣り場を見て回った時に感じた事だが、釣り人が整然と台を並べ、お互いにマナー良く釣っておられる、楽しそうな光景を目にした。天気も良く、のどかな一日を釣りに没頭している。やがて一人二人と帰路につく。眺めていると自分のゴミは自分の手で持ちかえる。当り前の行為がごく普通に行なわれているのである。良いことだと誰しも思う。しかし、釣り場は一向に美しいとは言えないまま。なぜ？ それは釣り人以外の人達のゴミや、上流域から流れ込ん



だゴミ等が後を断たないからである。そこで我々釣り人は考えなければならぬ事があると思う。それは自分のゴミを当り前に処分するだけでなく、自分の身の回りの目に付いたゴミ等一つでも二つでもよいから持ち帰るか、処分（焼却）等を出るのならばやる習慣を意識すれば良いのではと思う。また、決してこの事がすぐに効果を発揮するとは思えないが、中には以前よりクラブやグループ、団体等でも実施されているところが増えている。しかし我々釣り人、一人一人になってしまえば、なかなか良いと分かっている事でも行動に結び付かないのではないか。一人の時こそ、釣り場をきれいに自然を大切に、この気持ちをお忘れず実行したいものです。また、他の人達にそれとなくアピールする事も大切な事です。ひよつとすると、釣り人以外の人達も、後を継いで自然を大

切にする仲間が増えるかもしれないのだから、それにしても、このゴミはどこから流れて来るのか？

こんな文はいまさら記載する事でもなく、インスタクターの皆さんは誰もが実行していただいている事だと思いますが、いつまでたっても、変化のない事は継続方法を考えねばなりません。釣りを取り巻く環境は多くの問題を抱えて大変ですが、一人一人が心して取り組みたいですね。

人事報告

大阪府内水面魚場管理委員会 委員交代について

北村龍雄委員の任期満了に伴い、中出隆文氏（大阪府釣り団体協議会理事・JOFI大阪理事）が、第16期大阪府水面魚場管理委員会委員として、平成12年12月1日付け就任されました。

（JOFIおおさか広報部 物部）

Eメール待っています

全関西磯釣連盟のご厚意で、本部に設置されているコンピュータが使用出来るようになりました。特に皆様からの「メール」をお待ちしています。アドレスは zenkan@d9.dion.ne.jp です。システムの都合で返信が出来ないのは残念ですが、皆様のご意見を寄せていただくには問題がありません。今後会報にも「メールコーナー」などを設けるのも楽しいかと考えています。

編集後記

春  
1月メジロ釣りに誘われるが仕事の都合でいけず残念。JOFI大阪の新春懇談会、大いに懇談。2月になって、田舎の屋根雪下ろし。3月、大和川クリンアップキャンペーン開催。淡流釣り京都府山奥の廃村へ行く。4月、大阪市福島区民センターでJOFI大阪平成12年度定時総会。今年も頑張らないと気分一新。5月待望の鮎解禁。有田川に行くがうまい汁は飲めず。上桂川に行っても土産程度。でも大きめ、塩焼きにしてうまかった。6月になると、広報誌VOL6発行準備。だが手に付かない。心は有田川か上桂川。夏

7月、広報誌VOL6待望の発行。7月中頃、有田川ダム上流で良い思い、自分でもビックリするほど順調。しかし、8月になると大雨でまったくダメ。インストラクター研修会開催。9月末になると有田川「コロガシ」の人は大釣り。友釣り朝からガンバツテ7匹残念。来年からコロガシに変更か。秋  
10月だというのに山はなかなか紅葉とならない。大阪府ファミリー釣り大会開催。11月、友人から「はまち釣り」の誘い、でも私は坊主、ことはやっぱりダメ、来年にかけよう。

◆ 今回の広報誌VOL7号には、広島県釣りインストラクター連絡機構の、活躍状況を写真で紹介いたしました。実は事務局で保管しておりますので、読まれる方は連絡下さい。◆ また、多くの人達から原稿の協力があり、広報担当としてまことにありがとうございました。今後とも皆様の投稿をお願いいたします。

（広報部 物部胤三）